

第2学年1組 国語科指導案

平成27年6月22日（月）第5校時

授業者 T1

T2

図書館司書

1. 単元名 短歌の表現を味わおう

2. 教材名 「新しい短歌のために」馬場あき子・「短歌十二首」（光村図書 国語2）

3. 単元目標

- ・短歌を読む楽しさを知り、その表現の美しさに親しむことができる。（関心・意欲・態度）
- ・短歌の語句の使い方や表現の工夫に注目し、読み味わうことができる。（読むこと）
- ・自分の気に入った短歌の情報を集めて自分の考えを書くことができる。（書くこと）
- ・短歌のリズムを生かして音読することで伝統文芸の世界に親しむことができる（伝国）

4. 基盤

- 本単元は「新しい短歌のために」「短歌十二首」からなる短歌についての単元である。短歌は千年以上の歴史を持ちながら、現代でもなお新たな表現の形が生み出されている日本独自の定型詩である。本教材では特徴ある多くの短歌が取り上げられており、中学生にとってやや難しい文語の表現などを含め興味深く学習できる内容になっている。また、音読を繰り返すことで古くから親しまれてきたリズムと表現技法を味わうことができる。本単元を通して、受け継がれてきた伝統に親しむとともに、現代短歌を楽しむ機会にしたい。
- 本単元では五・七・五・七・七の短い字数の中に作者の思いなどを表現するための語句の使い方や描写の仕方に触れながら、表現の豊かさを味わわせたい。また、様々な歌人の短歌を味わうことで生徒自身のものの見方・考え方と比較し、自分の感想を持たせたい。特に、お気に入りの短歌について調べ、発表する場面でこれまで班活動で自分の意見を発表できなかった生徒に、自分の考えを発表するきっかけにさせたい。そして、多くの短歌に出会う中で自分が心ひかれる一首を見つけ、鑑賞することで短歌への興味関心を育て、今後の読書活動や表現活動に生かしていきたい。また、クラスメイトの作品を読むことで様々な考え方や感じ方を知り、生徒自身の考えを深めるための機会とさせたい。

5. 図書館活用教育との関連

「各種資料の効果的な活用を通し、知識を広げ、自分の考えを深める。」という本校図書館教育の目標を受けて、多くの短歌を鑑賞する中で、共感した短歌やその作者について必要な情報を集め、自分の知識を広げるとともに、より深く作品世界を味わうことのできるよう指導する。

また、短歌の内容を調べる際に複数の資料にあたり、その中から情報を選び、自分の言葉でまとめられるように資料も生徒の理解の段階に応じたものを用意して指導する。

6. 単元指導計画及び評価計画（全6時間）

時間	学習活動	関心・意欲・態度	読むこと	書くこと
第一次 2	○ブックトークを通して、短歌の形式や歴史を知る。 ○本文に取り上げられた作品を読み、表現の工夫を考え、自分の感想をまとめる。	・進んで音読に取り組んでいる。	・短歌の内容を理解している。 ・短歌に表された情景や作者の思い、ものの見方をとらえている。	・それぞれの短歌を読んで感想を自分なりの言葉で記述している。
第二次 2	○十二首の短歌を読み、内容を理解する。 ○十二首から一首気に入った短歌を選び、その理由を班で交流する。	・各短歌に描かれている情景や作者の思いを想像しようとしている。	・短歌の内容を理解している。 ・短歌にこめられた作者の気持ちやものの見方をとらえている。	・選んだ短歌の気に入った表現や理由が、聞く人を意識して分かりやすく文に表現されている。
第三次 2 本時 1/2	○「私のお気に入りの短歌」を一首選び、その短歌の大意と気に入った理由をワークシートにまとめる。 ○ワークシートをもとに自分の考えを発表する。	・積極的に調べ学習に取り組もうとしている。 ・ワークシートに自分の言葉で、記入しようとしている。	・選んだ短歌の大きな意味を読み取っている。	・選んだ短歌のどこが気に入ったのかその理由を含めて他者に伝えるように文に表現されている。

7. 本時の展開（5/6）

(1) 目標

- ・自分の考えや思いを積極的に表現しようとする。(意欲・関心・態度)
- ・短歌を読んで感じた内容や気に入った理由を分かりやすく表現している。

(書くこと) (読むこと)

(2) 資料

- ・ワークシート
- ・短歌集
- ・資料集

(3) 学習指導過程

学習活動	教師の支援(○)と学校司書の支援(★)	評価
1 本時の学習の内容とねらいを知る。	○前時までの確認をし、本時の学習について提示する。(T1)	・資料を参考に、短歌を調べ、自分なりの言葉でまとめられているか。 (ワークシート)
2 ワークシートを使い、「お気に入りの短歌」をまとめる。	★生徒の学習の参考になる図書を提示する。	
短歌について資料を参考に自分の考えを表現しよう。		
・図書館の書籍から短歌を一首選ぶ。 ・選んだ短歌の大まかな意味を図書を参考にまとめる。 ・選んだ短歌の気に入ったところはどこかなど感想をまとめる。	○図書を利用した調べ方について説明をする。(T2) ○選んだ短歌が分かりやすいよう付箋を配布する。(T2) ○作業に苦戦する生徒には前時までに習った作者の短歌を調べさせるなどの支援を行う。(T1)	・自分の考えや思いを積極的に表現しようとしているか。 (観察)
3 作成したワークシートをもとに班の中で短歌を紹介しあう。	○未完成の生徒に対しては発表を聞いて思ったことや分かったことを手がかりにしてワークシートにまとめを書くよう助言する。(T1)	
お気に入りの短歌について自分の考えを表現しよう。		
	○発表しにくい生徒についてはどんな短歌かなど声掛けをする。(T2)	
4 本時の振り返りを行う。	○本時のねらいについて振り返る。(T1)	

(4) 本時の具体的な評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足されると判断される生徒の具体例	努力を要すると判断される生徒の具体例と支援
関心・意欲・態度	ワークシートに記入し、その内容について積極的に班のメンバーに伝えようとし、相手の発表にも関心を持っている。	ワークシートに記入し、その内容について班のメンバーに伝えようとしている。	ワークシートへの記入が十分でなく、班のメンバーに伝えることができない生徒には、他者の発表を参考にするように助言する。
読むこと	短歌を読み、お気に入りの短歌を選び、その短歌の大まかな意味を読み取っている。	短歌を読み、お気に入りの短歌を選んでいる。	短歌を選べない生徒には、前時までに学習した歌人を調べるように助言する。
書くこと	選んだ短歌について、資料を参考に自分が感じたことや考えたことをワークシートにわかりやすく記述している。	選んだ短歌についてまとめており、自分の考えも記述されている。	選んだ短歌についてまとめられていない生徒には他の生徒の発表を聞いて、参考にするよう助言する。

(5) 研究の視点

○本時の目標の達成のために、図書館の活用の仕方は適切だったか。